



インドネシア通信

ラマダン開始

4/24からインドネシアでは1か月続くラマダン（断食月）が始まりました。

日本人には馴染みの薄いラマダンですが、ラマダンとは「イスラム歴の9月」を意味し、ムスリム（信徒）は夜明けから日没までの間、一切の飲食を断つことが義務とされています。その目的としては、

- ・断食を通して飢えを体験し、飢餓にある人の苦しみを共有する
- ・欲望の抑制を覚える
- ・日々の恵みに感謝し、富者は貧者に施す大切な時間とする

といったことが挙げられます。

断食は基本的に大人が行うもので、子供は乳幼児より上の年齢になると少しずつ空腹に慣れる練習をしていき、病人や妊婦、高齢者などは命の危険があるため免除となります。

過酷・厳格な修行を彷彿とさせる「断食」という言葉ですが、近年は「ファスティング」として健康増進や病気治療で欧米で注目されているようです。

「大規模な社会的制限（PSBB）」延長

4/9に発出されたジャカルタ首都特別州における大規模な社会制限の実施が5/22まで延長されました。

大規模社会制限措置に反して操業する企業や人の密集が依然として多くみられるため、延長後は違反企業及び違反者に対しより厳しい措置をとるということで、どんな罰則があるのかと戦々恐々しています。

ただ、その内のひとつが「腕立て伏せ」を課するというのを聞いてインドネシアらしく少し安心しました(笑)



首都当局は外出中にマスクをしていなかった市民に腕立て伏せをさせた＝28日（アンタラ通信）



飲食店はテイクアウトのみとなりモールは閑散としています